

令和6年度 信学会安茂里幼稚園 「園の自己評価」

1. 園の教育目標

『みつけよう やってみよう かんがえよう』

2. 本年度の育てたい子どもの像

『夢中になって遊ぶ子』（自ら ひと もの こと とつながる）
～遊んでわくわく 大好きいっぱい 心も体も大きくなあれ～

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	B
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	B
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	B
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	B
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	B
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	B
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	B
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	C
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	B
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	B
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 学校関係者評価委員（モニター）からの評価

- ・子どもたちの「やりたい」に合わせた保育環境が整えられていることで「やりたい」を実現することができている。今しか出来ない経験をたくさんしておくことよい。
- ・園での経験を家でも話したり、やってみようとしたりする姿に、家では出来ない経験を園でさせてもらっていると感じている。
- ・小学校との交流は、子どもたちにとっても安心や楽しみにつながる。
- ・先生方の変えることの大変さを感じたが、その挑戦が保育の形となってきているので、今後も続けていくと園の魅力となり広がっていくと思う。
- ・少子化の時代、園児を集めることは困難であるが、異年齢での関わりを深めることで、園児と未就園児との関わりもあると入園に安心感が生まれる。

5. 今年度の総合的な評価と次年度への課題

- ・保護者の方をはじめ、小学校や地域の方にも園の教育目標や保育内容にご理解をいただいている。
- ・教育目標のもと、子どもたち一人ひとりを大事にした保育を、先生方がそれぞれの立場で支え実行してきたことで、遊びが充実し子どもたちが育つ姿につながったと感じている。
- ・次年度は、子どもたちの姿をもっと語り合い、支援や環境に生かせるような体制作りをしていきたい。（職員同士・子ども同士・先生と子ども・職員と保護者・保護者同士等）